

西中だより

平成28年度 No.24
平成28年12月15日
須賀川市立西袋中学校
発行責任者 鶴巻 弘士

&&& 橋本勝也須賀川市長さんからの手紙を紹介します！！（敬称略）&&&

- 前号で、本稿において橋本克也須賀川市長さんと3年生による模擬授業の様子をご紹介しました。授業の後に生徒達は、市長さんへお礼の気持ちを交えた感想文をお届けしました。すると今度は、橋本市長さんから生徒達へ、丁寧なお手紙をいただきましたので、その内容を簡単に紹介いたします。

*** **

「西袋中学校の皆さん、先日は大変お世話になりました。感想文を読ませて頂き、とても感激しました。皆さんが、私の話をしっかりと理解してくれたことを実感しました。中学三年生の皆さんは、高校受験を控え、頑張っていることと思いますが、是非、自分を信じて頑張ってください。

私は、皆さんにこれからも自分を大切に生きてほしいと願っています。以前、こんな話を聞いたことがあります。『自分』という時には、二つの自分があり、一つは『自』という個人としての自分。もう一つは、『分』という字の自分であり、全体の中の一部としての自分です。

私は最近、前者の自分が大きすぎる人が多くなっているような気がしています。もちろん周りばかり気にして、自分の考えも言えない後者の自分でも困ってしまっていますが・・・。

私は皆さんには、しっかりと自分の考えを持ち、周囲の人々の意見や立場を理解し、思いやりを持った、バランスのよい自分を育ててほしいと思っています。これから皆さんは、いろんな経験をし、失敗や挫折をすることもありますが、自分を支えてくれている周りの人々に感謝して、自分を大切にしてください。

皆さんの限りない未来に期待し、応援しています。頑張れ！！西中生！！

今学校では（写真で部活動の様子を紹介）##

- 前号に引き続いて、今回は女子バスケ部、男子バスケ部、バレー部の活動の様子を写真で紹介します。



《 校長のつぶやき 》・・・ 苫野一徳（教育哲学者）「アクティブ・ラーニングの哲学」より）・・・

※ 本校では、授業において協同的な学び方を取り入れて、生徒一人ひとりの考えを引き出し、話し合わせる過程を通して、みんなでより良い考え方を導き出す授業を行っています。その根本と成る考え方がどのようなものなのか、苫野氏の著書から分かりやすく説明している部分を引用させて頂き、説明したいと思います。

一 民主主義の土台としての「協同（協働）的な学び」について論じたのは、『民主主義と教育』を著したジョン・デューイです。彼によると、民主主義に不可欠な要素は「自由な探究」と「自由なコミュニケーション」です。各学校でもこの二つを保障する必要があります。

従来の画一的な一斉授業は、基本的に子ども達を黙らせ座らせ、教師の言うとおりに勉強させるものです。これでは民主主義の精神は十分に育まれません。だから、学校での学びのあり方は、「協同的な学び」や「プロジェクト型の学び」へと、その重点を転換していく必要があるとデューイは訴えたのです。

民主主義の精神というものは、生身のコミュニケーションを通してこそ、しっかり根を張って育まれていくものです。生活や苦楽を共にしたり、喧嘩や仲直りや、激しい議論を交わしたりしながら、徐々に育まれていくものなのです。

時代と共に、学びの在り方はいくらか変わります。しかし、民主主義の土台としての学校の役割が変わることはありません。インターネット時代の今日だからこそ、私たちはその意義を再認識し、学校における「協同的な学び」の環境をいっそう整えていく必要があるのです。－